

CSIS Discussion Paper No. 21

空間データクリアリングハウス構築のためのメタデータ記述法

貞広幸雄，奥貫圭一

SEPTEMBER, 1999

Center for Spatial Information Science and Department of Urban Engineering  
University of Tokyo  
7-3-1, Bunkyo-ku, Tokyo 113-8656, Japan

# 目次

メタデータとは	1
XML ファイルの実際	1
1. ヘッダー	2
2. 題名	3
3. データセットの範囲	4
4. データセット言語コード	6
5. 分類	7
6. メタデータファイル識別子	11
7. 版 , シリーズ名	12
8. 活動識別情報	13
9. 参照日	14
10. 責任者情報	15
11. 解像度コード	19
12. データセットの文字符合集合	20
13. 要約 , 目的	21
14. 進捗状況コード	22
15. アクセスの制約 , 使用の制約	23
16. 系譜の説明	24
17. 定性的な叙述報告	25
18. 空間表現型コード	26
19. 空間参照系型	27
20. 配布データ識別子	28
21. フォーマット名	29
22. 配布に使用するメディア	30
23. 配布データのオンライン情報源の URL	31
25 ( 24 は欠番 ) . メタデータコードの言語 , メタデータ文字コードセット	32
26. メタデータの日付	33
27. 識別情報	34
28. データ品質情報	35
29. 空間データ表現情報	36
30. 参照系情報	38
31. 配布データフォーマット情報	39
32. フッター	40

## CSIS 所有空間情報のメタデータ記述方法解説

### メタデータとは

メタデータとは、各空間データに含まれている内容を簡潔に記述するためのインデックスである。例えば、空間データの領域や作成時点、属性項目など、空間データの特性を表す項目がメタデータとして記述される。

メタデータは、一つの空間データセットに対して必ず一つ作成され、WEB等を通じて広く公開される。空間データの利用希望者は、適切な検索システムを通じてメタデータを検索することで、希望する情報を含む空間データが存在するか否か、存在するとすればその場所はどこか、等の情報を入手することが可能になる。本研究グループで収集したデータを研究者間により広く提供しようとするとき、メタデータがなければデータの所在を他の研究者に伝えることは困難である。本研究グループで収集する空間データの量が増えれば増えるほど、メタデータの重要度はますます高くなると言える。

メタデータの記述には様々な方法があるが、本研究グループではメタデータのデータソースとしてテキスト形式のXMLファイルを採用する。その理由は、XMLファイルが自由度の高い表現形式であり、今後、メタデータの仕様が変更されたときにも容易に対応できること、テキスト形式であるため、書き換えが容易であること、などである。XMLファイルとはWEB用のHTMLファイルをさらに拡張したものであり、ユーザーがタグを自由に定義できるという点が特徴である。そこで、メタデータの項目名を全てタグとして定義し、タグに囲まれた部分にメタデータの内容を記入することで、メタデータのデータソースが作成できるようにしている。

メタデータの項目には、ISO TC211において定められたもののうち、必須項目と一部のオプショナル項目、それに、日本のデータ固有の項目（例えば漢字コードなど）を加えた。ISO案によるメタデータ案は、今後、国際的な標準となる可能性が高く、それに基づいたメタデータであれば長期間利用可能であろう。

### XML ファイルの実際

XML ファイルは基本的にはタグとそれに囲まれたテキスト項目の羅列であり、HTML ファイルとよく似たファイル形式を持つ。具体例は巻末に付記している。次ページより、個々の項目の内容について、項目名、タグ形式、説明、事例の順に簡単に説明する。

各項目は全て必ず記入しなければならないというわけではない。各項目名の後に付した【必須】【オプション】がその必要度を表しており、必須項目は必ず記入、オプション項目は可能であれば記入することが望ましいが、難しければ記入しなくても良い、という項目である。1.-5.の項目は基本的に全て必須項目であり、6.以降の項目は全てオプションである。実際、実例を見ればわかるとおり、データセットによっては記入の困難な項目が含まれていることもある。但し、メタデータの目的が、データを検索する際のインデックスであるということを考えると、可能な限り記入することが望ましい。なお、オプション項目で記入が難しい場合には、タグに囲まれた部分を空欄にするのではなく、タグ自体を記入しないようにする。

また、項目の中には一回だけではなく複数回記述可能なものもある（【複数回記述可】と書かれている）。例えば、データセットの特徴を表すキーワードなどは、1つではなく複数併記した方がデータを検索するものにとっては親切である。そのような項目は、タグを一つではなく複数回記述し、それぞれの中にキーワード名を書き込んで良い。

なお、項目の記入方法に迷ったときの考え方の一つとして、メタデータはデータを検索する他の研究者のためのものである、ということがある。つまり、他の研究者にとって検索時に有用であるように記入することが重要である。

## 1. ヘッダー【必須】

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE STA メタデータ SYSTEM "stameta.dtd">
<STA メタデータ>
```

上の3行はいわゆるヘッダーに相当する部分であり、全てのメタデータファイルにおいてそのままコピーして用いる。但し、メタデータファイルの漢字コードがSJIS以外の場合（例えばUNIXで作成されているとEUCなど）には、その漢字コード名をencoding欄に記入する。

## 2. 題名【必須】

<題名></題名>

空間データの題名を表す項目 .

数値地図 2500

<題名>数値地図 2500 ( 空間データ基盤 ) 東京- 1 </題名>

国勢調査

<題名>平成 7 年国勢調査第 1 次基本集計全国編</題名>

地価公示ファイル

<題名>地価公示ファイル</題名>

古水文学データベース中部日本-1(試作)

<題名>古水文学データベース中部日本-1(試作)</題名>

### 3. データセットの範囲【座標による地表の範囲か地表の範囲名称のどちらか一方を必須、複数回記述可】

```
<データセットの範囲>
<座標による地表の範囲>
<西側境界座標></西側境界座標>
<東側境界座標></東側境界座標>
<北側境界座標></北側境界座標>
<南側境界座標></南側境界座標>
</座標による地表の範囲>
<地理的識別子による地表の範囲>
<地表の範囲名称></地表の範囲名称>
<地表の範囲名称参照></地表の範囲名称参照>
</地理的識別子による地表の範囲>
<時間的範囲の日時></時間的範囲の日時>
<最小標高値></最小標高値>
<最大標高値></最大標高値>
</データセットの範囲>
```

空間データが空間・時間的にどのような範囲をカバーしているのかを示す項目。「座標による地表の範囲」か「地表の範囲名称」のどちらか一方を必ず記入する。「座標による地表の範囲」を記入した場合、「地表の範囲名称参照」は記述してはいけない。「地表の範囲名称」を記入した場合、「地表の範囲名称参照」はオプション記入である（記入しなくてもよい）。「地理的識別子」とは、座標ではない方法によって空間における位置を表現するものである（例えば行政単位など）。なお、「地表の範囲名称」はデータセットの空間的な領域を説明する場所や範囲や領域の名称、「地表の範囲名称参照」は地表の範囲名称のために使用される地名辞典やその他の参照をそれぞれ表す。

#### 数値地図 2500

```
<データセットの範囲>
<座標による地表の範囲>
<西側境界座標>139.124710</西側境界座標>
<東側境界座標>139.524711</東側境界座標>
<北側境界座標>35.849174</北側境界座標>
<南側境界座標>35.485774</南側境界座標>
</座標による地表の範囲>
<時間的範囲の日時>1995</時間的範囲の日時>
</データセットの範囲>
```

#### <データセットの範囲>

```
<地表の範囲名称>東京都 - 八王子市、立川市、青梅市、昭島市、町田市、日野市、福生市、東大和市、武蔵村山市、多摩市、羽村市、あきる野市、瑞穂町、日の出町 </地表の範囲名称>
<時間的範囲の日時>1995</時間的範囲の日時>
</データセットの範囲>
```

#### 国勢調査

```
<データセットの範囲>
<地理的識別子による地表の範囲>
<地表の範囲名称>全国</地表の範囲名称>
```

<地表の範囲名称参照>なし</地表の範囲名称参照>  
</地理的識別子による地表の範囲>  
<時間的範囲の日時>19951001</時間的範囲の日時>  
</データセットの範囲>

#### 地価公示ファイル

<データセットの範囲>  
<座標による地表の範囲>  
<西側境界座標>122</西側境界座標>  
<東側境界座標>149</東側境界座標>  
<北側境界座標>46</北側境界座標>  
<南側境界座標>24</南側境界座標>  
</座標による地表の範囲>  
</データセットの範囲>  
  
<データセットの範囲>  
<地表の範囲名称>日本全国 </地表の範囲名称>  
</データセットの範囲>

#### 古水文学データベース中部日本-1(試作)

<データセットの範囲>  
<座標による地表の範囲>  
<西側境界座標>137.40</西側境界座標>  
<東側境界座標>138.00</東側境界座標>  
<北側境界座標>37.00</北側境界座標>  
<南側境界座標>36.00</南側境界座標>  
</座標による地表の範囲>  
<最小標高値>0</最小標高値>  
<最大標高値>3184</最大標高値>  
</データセットの範囲>  
<データセットの範囲>  
<地理的識別子による地表の範囲>  
<地表の範囲名称>中部日本の一</地表の範囲名称>  
<地表の範囲名称参照>日本標準地域メッシュコード</地表の範囲名称参照>  
</地理的識別子による地表の範囲>  
<最小標高値>0</最小標高値>  
<最大標高値>3184</最大標高値>  
</データセットの範囲>

#### 4. データセット言語コード【必須，複数回記述可】

```
<データセット言語コード>jpn</データセット言語コード>
```

データセットの言語を表す項目。日本語の場合は jpn，英語の場合は en。

数値地図 2500

```
<データセット言語コード>jpn</データセット言語コード>
```

国勢調査

```
<データセット言語コード>jpn</データセット言語コード>
```

地価公示ファイル

```
<データセット言語コード>jpn</データセット言語コード>
```

古水文学データベース中部日本-1(試作)

```
<データセット言語コード>en</データセット言語コード>
```

## 5. 分類【主題コードはオプション、キーワードは必須、いずれも複数回記述可】

```
<分類>
  <主題コード></主題コード>
  <キーワード情報>
    <キーワード></キーワード>
    <キーワードのタイプコード></キーワードのタイプコード>
  </キーワード情報>
</分類>
```

データセットに含まれているデータの種類を表す項目。「主題コード」とは、

```
1:地籍, 2:文化と人口統計学の, 3:地形, 4:環境, 5:測地管理, 6:運輸通信, 7:光・熱/画像, 8:生物化学, 9:土壤, 10:国境, 11:植物, 12:低温分野, 13:水文, 14:環境監視, 15:湿地, 16:土地利用, 17:海洋学的な, 18:モデリングおよびシミュレーション, 19:施設, 20:地質, 21:産業・エネルギー, 22:建築物/構造物
```

という22の項目のうち、該当するものを選択する。「キーワード」とは、データセットの内容を表すキーワードを列挙（複数回記述）する。「キーワードのタイプコード」とは、

```
1:時間的な, 2:主題, 3:場所, 4:階層
```

の4つから選択する。

### 数値地図2500

```
<分類>
  <主題コード>3</主題コード>
  <主題コード>6</主題コード>
  <主題コード>13</主題コード>
  <主題コード>19</主題コード>

  <キーワード情報>
    <キーワード>空間データ基盤</キーワード>
    <キーワードのタイプコード>2</キーワードのタイプコード>
  </キーワード情報>
  <キーワード情報>
    <キーワード>道路ネットワーク</キーワード>
    <キーワードのタイプコード>2</キーワードのタイプコード>
  </キーワード情報>
  <キーワード情報>
    <キーワード>行政区画ポリゴン</キーワード>
    <キーワードのタイプコード>2</キーワードのタイプコード>
  </キーワード情報>
  <キーワード情報>
    <キーワード>東京都八王子市</キーワード>
    <キーワードのタイプコード>3</キーワードのタイプコード>
  </キーワード情報>
```

<キーワード情報>  
  <キーワード>東京都立川市</キーワード>  
  <キーワードのタイプコード>3</キーワードのタイプコード>  
</キーワード情報>  
<キーワード情報>  
  <キーワード>東京都青梅市</キーワード>  
  <キーワードのタイプコード>3</キーワードのタイプコード>  
</キーワード情報>  
<キーワード情報>  
  <キーワード>東京都昭島市</キーワード>  
  <キーワードのタイプコード>3</キーワードのタイプコード>  
</キーワード情報>  
<キーワード情報>  
  <キーワード>東京都町田市</キーワード>  
  <キーワードのタイプコード>3</キーワードのタイプコード>  
</キーワード情報>  
<キーワード情報>  
  <キーワード>東京都日野市</キーワード>  
  <キーワードのタイプコード>3</キーワードのタイプコード>  
</キーワード情報>  
<キーワード情報>  
  <キーワード>東京都福生市</キーワード>  
  <キーワードのタイプコード>3</キーワードのタイプコード>  
</キーワード情報>  
<キーワード情報>  
  <キーワード>東京都東大和市</キーワード>  
  <キーワードのタイプコード>3</キーワードのタイプコード>  
</キーワード情報>  
<キーワード情報>  
  <キーワード>東京都武蔵村山市</キーワード>  
  <キーワードのタイプコード>3</キーワードのタイプコード>  
</キーワード情報>  
<キーワード情報>  
  <キーワード>東京都多摩市</キーワード>  
  <キーワードのタイプコード>3</キーワードのタイプコード>  
</キーワード情報>  
<キーワード情報>  
  <キーワード>東京都羽村市</キーワード>  
  <キーワードのタイプコード>3</キーワードのタイプコード>  
</キーワード情報>  
<キーワード情報>  
  <キーワード>東京都あきる野市</キーワード>  
  <キーワードのタイプコード>3</キーワードのタイプコード>  
</キーワード情報>  
<キーワード情報>  
  <キーワード>東京都西多摩郡瑞穂町</キーワード>  
  <キーワードのタイプコード>3</キーワードのタイプコード>

</キーワード情報>  
<キーワード情報>  
  <キーワード>東京都西多摩郡日の出町</キーワード>  
  <キーワードのタイプコード>3</キーワードのタイプコード>  
  </キーワード情報>  
</分類>

#### 国勢調査

<分類>  
  <主題コード>2</主題コード>  
  
  <キーワード情報>  
    <キーワード>人口</キーワード>  
    <キーワードのタイプコード>2</キーワードのタイプコード>  
    <キーワードのシソーラス名>なし</キーワードのシソーラス名>  
  </キーワード情報>  
</分類>

#### 地価公示ファイル

<分類>  
  <主題コード>16</主題コード>  
  
  <キーワード情報>  
    <キーワード>経済学</キーワード>  
    <キーワードのタイプコード>2</キーワードのタイプコード>  
  </キーワード情報>  
  <キーワード情報>  
    <キーワード>都市計画</キーワード>  
    <キーワードのタイプコード>2</キーワードのタイプコード>  
  </キーワード情報>  
  <キーワード情報>  
    <キーワード>地域計画</キーワード>  
    <キーワードのタイプコード>2</キーワードのタイプコード>  
  </キーワード情報>  
  <キーワード情報>  
    <キーワード>マーケティング</キーワード>  
    <キーワードのタイプコード>3</キーワードのタイプコード>  
  </キーワード情報>  
</分類>

#### 古水文学データベース中部日本-1(試作)

<分類>  
  <主題コード>3</主題コード>  
  <主題コード>4</主題コード>  
  <主題コード>13</主題コード>  
  <主題コード>18</主題コード>  
  <主題コード>20</主題コード>

```
<キーワード情報>
  <キーワード>地域名</キーワード>
</キーワード情報>
<キーワード情報>
  <キーワード>河川名</キーワード>
</キーワード情報>
<キーワード情報>
  <キーワード>支流名</キーワード>
</キーワード情報>
</分類>
```

## 6. メタデータファイル識別子【オプション】

```
<メタデータファイル識別子></メタデータファイル識別子>
```

メタデータを記入している XML ファイル名を記入する。

数値地図 2500

```
<メタデータファイル識別子>META0003.xml</メタデータファイル識別子>
```

国勢調査

```
<メタデータファイル識別子>META0008.xml</メタデータファイル識別子>
```

地価公示ファイル

```
<メタデータファイル識別子>META0004.xml</メタデータファイル識別子>
```

古水文学データベース中部日本-1(試作)

```
<メタデータファイル識別子>META0001.xml</メタデータファイル識別子>
```

## 7. 版 , シリーズ名【オプション】

```
<版></版>
<シリーズ名></シリーズ名>
```

シリーズとして作成されている空間データの版に関する項目 .

数値地図 2500

```
<版>1</版>
<シリーズ名>数値地図 2500 ( 空間データ基盤 ) </シリーズ名>
```

国勢調査

```
<シリーズ名>平成 7 年国勢調査</シリーズ名>
```

地価公示ファイル

```
<版>初版</版>
<シリーズ名>国土数値情報</シリーズ名>
```

古水文学データベース中部日本-1(試作)

```
<版>1.000</版>
<シリーズ名>古水文学データベース</シリーズ名>
```

## 8. 活動識別情報【オプション、複数回記述可】

```
<活動識別情報>
  <活動型></活動型>
  <活動名称></活動名称>
</活動識別情報>
```

データセット作成活動の種類の説明（任務、研究、計画、事業など）と名称を表す項目。

数値地図 2500

```
<活動識別情報>
  <活動型>事業 </活動型>
  <活動名称>GIS 基盤情報整備 </活動名称>
</活動識別情報>
```

地価公示ファイル

```
<活動識別情報>
  <活動型>数値情報整備事業</活動型>
  <活動名称>国土情報整備事業</活動名称>
</活動識別情報>
```

古水文学データベース中部日本-1(試作)

```
<活動識別情報>
  <活動型>文部省科学研究費 研究成果公開促進費</活動型>
</活動識別情報>
```

## 9. 参照日【オプション】

<参照日></参照日>

データセットが出版された日時、利用可能になった日時を表す項目。西暦を用い、1999年4月30日であれば19990430と記入する。

数値地図 2500

<参照日>19970401</参照日>

国勢調査

<参照日>199611</参照日>

古水文学データベース中部日本-1(試作)

<参照日>19980905</参照日>

## 10. 責任者情報【オプション、複数回記述可】

```
<責任者情報>
  <責任者個人名></責任者個人名>
  <責任者組織名></責任者組織名>
  <責任者職務コード></責任者職務コード>
  <所在地></所在地>
  <市区町村></市区町村>
  <都道府県></都道府県>
  <郵便番号></郵便番号>
  <国></国>
  <責任者のオンライン情報源の URL></責任者のオンライン情報源の URL>
  <電子メールアドレス></電子メールアドレス>
  <電話番号></電話番号>
</責任者情報>
```

データセットの発行者、あるいは組織に関する項目。「責任者個人名」と「責任者組織名」はどちらか一方を記述する。「責任者職務コード」とは、

1：創始者，2：発行者，3：管理者，4：主要調査員，5：内容提供者，6：処理業者，7：代理店，8：窓口，9：メタデータ提供者
--

という9の項目のうち、該当するものを選択する。「責任者のオンライン情報源の URL」とは、責任者、責任者組織にアクセスするためのURL（例えばその組織の持つホームページ）を記述する。「所在地」「責任者のオンライン情報源の URL」「電子メールアドレス」「電話番号」はいずれも複数回記述可。

例えば数値地図であれば、データセットの創始者、発行者、管理者、メタデータ提供者としての国土地理院、代理店として日本地図センターに関する情報が含まれることになる。なお、仮に一つの組織であっても、責任者職務コードが異なる場合には全ての責任者職務コードについて責任者情報を繰り返し記入する。

### 数値地図 2500

```
<責任者情報>
  <責任者組織名>建設省国土地理院 </責任者組織名>
  <責任者職務コード>1</責任者職務コード>
  <所在地>北郷 1 番 </所在地>
  <市区町村>つくば市</市区町村>
  <都道府県>茨城県</都道府県>
  <郵便番号>305-0811</郵便番号>
  <国>JPN</国>
  <責任者のオンライン情報源の URL>http://www.gsi-mc.go.jp/GSI/CONTACT/metadata.html</責任者のオンライン情報源の URL>
  <電子メールアドレス>dmapinfo@gis-mc.go.jp</電子メールアドレス>
  <電話番号>0298-64-1111</電話番号>
</責任者情報>
<責任者情報>
  <責任者組織名>建設省国土地理院 </責任者組織名>
  <責任者職務コード>2</責任者職務コード>
```

<所在地>北郷 1 番 </所在地>  
<市区町村>つくば市</市区町村>  
<都道府県>茨城県</都道府県>  
<郵便番号>305-0811</郵便番号>  
<国>JPN</国>  
<責任者のオンライン情報源の URL><http://www.gsi-mc.go.jp/GSI/CONTACT/metadata.html></責任者のオンライン情報源の URL>  
<電子メールアドレス>dmapinfo@gsi-mc.go.jp</電子メールアドレス>  
<電話番号>0298-64-1111</電話番号>  
</責任者情報>  
<責任者情報>  
<責任者組織名>建設省国土地理院 </責任者組織名>  
<責任者職務コード>3</責任者職務コード>  
<所在地>北郷 1 番 </所在地>  
<市区町村>つくば市</市区町村>  
<都道府県>茨城県</都道府県>  
<郵便番号>305-0811</郵便番号>  
<国>JPN</国>  
<責任者のオンライン情報源の URL><http://www.gsi-mc.go.jp/GSI/CONTACT/metadata.html></責任者のオンライン情報源の URL>  
<電子メールアドレス>dmapinfo@gsi-mc.go.jp</電子メールアドレス>  
<電話番号>0298-64-1111</電話番号>  
</責任者情報>  
<責任者情報>  
<責任者組織名>財団法人日本地図センター</責任者組織名>  
<責任者職務コード>7</責任者職務コード>  
<所在地>青葉台 4-9-6 </所在地>  
<市区町村>目黒区 </市区町村>  
<都道府県>東京都 </都道府県>  
<郵便番号>153-8522 </郵便番号>  
<国>JPN</国>  
<責任者のオンライン情報源の URL><http://www.jmc.or.jp/> </責任者のオンライン情報源の URL>  
<電子メールアドレス>ken1@jmc.or.jp </電子メールアドレス>  
<電話番号>03-3485-5418 </電話番号>  
</責任者情報>  
<責任者情報>  
<責任者組織名>建設省国土地理院 </責任者組織名>  
<責任者職務コード>8</責任者職務コード>  
<所在地>北郷 1 番 </所在地>  
<市区町村>つくば市</市区町村>  
<都道府県>茨城県</都道府県>  
<郵便番号>305-0811</郵便番号>  
<国>JPN</国>  
<責任者のオンライン情報源の URL><http://www.gsi-mc.go.jp/GSI/CONTACT/metadata.html></責任者のオンライン情報源の URL>  
<電子メールアドレス>dmapinfo@gsi-mc.go.jp</電子メールアドレス>  
<電話番号>0298-64-1111</電話番号>

</責任者情報>  
<責任者情報>  
  <責任者組織名>建設省国土地理院 </責任者組織名>  
  <責任者職務コード>9</責任者職務コード>  
  <所在地>北郷 1 番 </所在地>  
  <市区町村>つくば市</市区町村>  
  <都道府県>茨城県</都道府県>  
  <郵便番号>305-0811</郵便番号>  
  <国>JPN</国>  
  <責任者のオンライン情報源の URL><http://www.gsi-mc.go.jp/GSI/CONTACT/metadata.html></責任者のオンライン情報源の URL>  
  <電子メールアドレス>dmapinfo@gsi-mc.go.jp</電子メールアドレス>  
  <電話番号>0298-64-1111</電話番号>  
</責任者情報>

#### 国勢調査

<責任者情報>  
  <責任者組織名>(財)統計情報研究開発センター</責任者組織名>  
  <責任者職務コード>8</責任者職務コード>  
  <所在地>南青山 6-3-9 大和ビル 2F</所在地>  
  <市区町村>港区</市区町村>  
  <都道府県>東京都</都道府県>  
  <郵便番号>107-0062</郵便番号>  
  <国>JPN</国>  
  <責任者のオンライン情報源の URL><http://www.sinfonica.or.jp></責任者のオンライン情報源の URL>  
  <電子メールアドレス>webmaster@sinfonica.or.jp</電子メールアドレス>  
  <電話番号>03-5467-0481</電話番号>  
</責任者情報>

#### 地価公示ファイル

<責任者情報>  
  <責任者組織名>国土庁計画・調整局総務課国土情報整備室</責任者組織名>  
  <責任者職務コード>2</責任者職務コード>  
  <所在地>霞が関 1 丁目 2 番 2 号 中央合同庁舎第 5 号館</所在地>  
  <市区町村>千代田区</市区町村>  
  <都道府県>東京都</都道府県>  
  <郵便番号>100-8972</郵便番号>  
  <国>JPN</国>  
  <責任者のオンライン情報源の URL><http://www.nla.go.jp/ksj/index.html></責任者のオンライン情報源の URL>  
  <電子メールアドレス>nsdijp@nla.go.jp</電子メールアドレス>  
  <電話番号>03-5510-8022</電話番号>  
</責任者情報>  
<責任者情報>  
  <責任者組織名>国土庁計画・調整局総務課国土情報整備室</責任者組織名>  
  <責任者職務コード>5</責任者職務コード>

<所在地>霞が関 1 丁目 2 番 2 号 中央合同庁舎第 5 号館</所在地>  
<市区町村>千代田区</市区町村>  
<都道府県>東京都</都道府県>  
<郵便番号>100-8972</郵便番号>  
<国>JPN</国>  
<責任者のオンライン情報源の URL><http://www.nla.go.jp/ksj/index.html></責任者のオンライン情報源の URL>  
<電子メールアドレス>nsdijp@nla.go.jp</電子メールアドレス>  
<電話番号>03-5510-8022</電話番号>  
</責任者情報>  
<責任者情報>  
<責任者組織名>国土庁計画・調整局総務課国土情報整備室</責任者組織名>  
<責任者職務コード>8</責任者職務コード>  
<所在地>霞が関 1 丁目 2 番 2 号 中央合同庁舎第 5 号館</所在地>  
<市区町村>千代田区</市区町村>  
<都道府県>東京都</都道府県>  
<郵便番号>100-8972</郵便番号>  
<国>JPN</国>  
<責任者のオンライン情報源の URL><http://www.nla.go.jp/ksj/index.html></責任者のオンライン情報源の URL>  
<電子メールアドレス>nsdijp@nla.go.jp</電子メールアドレス>  
<電話番号>03-5510-8022</電話番号>  
</責任者情報>

#### 古水文学データベース中部日本-1(試作)

<責任者情報>  
<責任者組織名>日本第四紀学会 INGUA/GLOCOPH 対応委員会</責任者組織名>  
<責任者職務コード>3</責任者職務コード>  
<所在地>駒込 5-16-9 学会センタ C21</所在地>  
<市区町村>文京区</市区町村>  
<都道府県>東京都</都道府県>  
<郵便番号>113-0021</郵便番号>  
<国>JPN</国>  
<責任者のオンライン情報源の URL><http://www.geogrs.u-tokyo.ac.jp/glocoph></責任者のオンライン情報源の URL>  
<電子メールアドレス>oguchi@geogrs.u-tokyo.ac.jp</電子メールアドレス>  
<電話番号>03-3812-2111 ex4576</電話番号>  
</責任者情報>

## 11. 解像度コード【オプション、複数回記述可】

<解像度コード></解像度コード>

データセットの空間解像度を表す項目。以下の20の中から選択する。

0 : 1:100万以下 , 1 : 1:20万 1:999999 , 2 : 1:5万 1:199999 , 3 : 1:2.5万 1:49999 , 4 : 1:1万 1:24999 , 5 : 1:5000 1:9999 , 6 : 1:2500 1:4999 , 7 : 1:1000-1:2499 , 8 : 1:500-1:999 , 9 : 1:500 より大 , 10 : 1m未満 , 11 : 1m , 12 : 2-5m , 13 : 6-9m , 14 : 10-19m , 15 : 20-29m , 16 : 30-49m , 17 : 50-99m , 18 : 100-999m , 19 : 1-9km , 20 : 10km以上

数値地図 2500

<解像度コード>6</解像度コード>

地価公示ファイル

<解像度コード>3</解像度コード>

古水文学データベース中部日本-1(試作)

<解像度コード>17</解像度コード>

## 12. データセットの文字符合集合

```
<データセットの文字符合集合></データセットの文字符合集合>
```

データセットの漢字コードを表す項目 . EUC , SJIS(新)など .

数値地図 2500

```
<データセットの文字符合集合>shift_jis</データセットの文字符合集合>
```

国勢調査

```
<データセットの文字符合集合>JIS(漢字は Shift-JIS コード)</データセットの文字符合集合>
```

地価公示ファイル

```
<データセットの文字符合集合>iso-2022-jp</データセットの文字符合集合>
```

### 13. 要約、目的【オプション】

<要約></要約>  
<目的></目的>

データセット自体、及び、作成目的に関する記述を簡単にまとめた項目。「データは、などの項目を含む空間データであり、などの紙地図を元に作成されている」などの記述が行われる。

#### 数値地図 2500

<要約>「原則として地方自治体の作成した縮尺 2,500 分 1 都市計画基図に描かれている情報のうち、行政界、道路中心線、鉄道線・駅、公園等場地、内水面、基準点、（一部地域については、さらに、街区界、公共建物、一般建物（ラスター形式）、道路境界、河川境界）をベクトル形式で数値化したものです。」</要約>

<目的>「公共測量その他広く一般の測量の利用に供することを目的として、建設省国土地理院がすべての測量の基礎として行った測量（測量法第四条に規定された基本測量）の成果です。」</目的>

#### 国勢調査

<要約>人口の男女・年齢・配偶関係別構成に関する結果、世帯及び住居に関する結果並びに高齢世帯等に関する結果を全国について集計したもの</要約>

<目的>統計情報の多角的利用を推進するため、総務庁統計局が保有する統計情報を磁気媒体（MT、MO、CD-R、FD 等）により提供</目的>

#### 地価公示ファイル

<要約>本ファイルは、毎年土地鑑定委員会から刊行される「地価公示」に基づき、昭和 45 年から平成 7 年までの標準値の位置及び属性データを整備したものである。主なデータ項目は以下のとおりである。なお、位置座標は 2 次メッシュ毎の正規化座標で示されている。 標準地番号 標準地市区町村名称 住居表示 行政区域コード 標準値属性データ 地籍、標準値の利用現況（住宅、店舗、事務所、銀行、旅館、給油所、工場、倉庫、農地、山林、医院、空地、作業場、原野、その他、用材、雑木）、利用状況表示、建物構造、供給施設（水道、ガス、下水）有無、駅からの距離、用途地域、建ぺい率、容積率、選定年次、公示価格、旧標準地番号、属性異動履歴

</要約>

<目的>標準地の選定状況、標準地の位置、公示価格の変化、標準値の属性等のデータを整備し、各種計画の策定等に資することを目的とする。</目的>

#### 古水文学データベース中部日本-1(試作)

<要約>過去の河川の流量と土砂輸送費を復元する際に有用な諸資料を収録したデータベース</要約>

<目的>古水文環境復元</目的>

#### 14. 進捗状況コード【オプション】

<進捗状況コード></進捗状況コード>

データセットが完成しているのか、現在作成中であるのかといった事柄を示す項目。以下の7の中から選択する。

1：完成、2：作成中、3：計画中、4：要求あり、5：進行中、6：歴史的保管、7：廃止

数値地図 2500

<進捗状況コード>1</進捗状況コード>

国勢調査

<進捗状況コード>1</進捗状況コード>

地価公示ファイル

<進捗状況コード>1</進捗状況コード>

古水文学データベース中部日本-1(試作)

<進捗状況コード>2</進捗状況コード>

## 15. アクセスの制約、使用の制約【オプション】

<アクセスの制約></アクセスの制約>  
<使用の制約></使用の制約>

プライバシーや知的所有権保護のためのアクセス制約、データセット利用にあたっての特別な制限や限度（「なし」や「著作権」など）を表す項目。

### 数値地図 2500

<アクセスの制約>「データセットの入手はオンラインではできません。データセットを収録したCD-ROMは、全国の主な刊行地図取扱店、または、（財）日本地図センター（通信販売可能）で購入する必要があります。データセットの閲覧は、国土地理院・地方測量部・支所においてできます。CD-ROMの定価は1枚7500円（税込み）です。」</アクセスの制約>

<使用の制約>「国土地理院刊行の数値地図の一部または全部を複製・使用する場合には、測量法の規定に基づき建設省国土地理院長の承認が必要です。」</使用の制約>

### 国勢調査

<アクセスの制約>利用者登録必要</アクセスの制約>  
<使用の制約>インターネットによる統計データ利用に関する規約あり</使用の制約>

### 地価公示ファイル

<アクセスの制約>公的機関（政府機関、地方公共団体、大学（私立大学を含む）をいい、公益法人を含まない）への貸出</アクセスの制約>

<使用の制約> 第三者への提供は不可 成果の公表、公開には許可が必要 公表の場合は出典の明記が必要 使用後は返却が必要 返却後はコピー等の消去が必要</使用の制約>

### 古水文学データベース中部日本-1(試作)

<アクセスの制約>第四紀学・自然地理学・地形学・地質学に取り組み研究者などを対象とする</アクセスの制約>  
<使用の制約>1) 研究目的に限って使用すること 2) 入手したデータファイルを無断で他人に配布しないこと・・・</使用の制約>

## 16. 系譜の説明【オプション】

<系譜の説明></系譜の説明>

データセットがどのようにしてつくられたのかを示す項目。元データが紙地図なのか、衛星画像なのか、航空写真なのか、及び、それら元データの名称、元データからデジタルデータを作成した方法（デジタイズ、スキャンなど）を書く。

## 17. 定性的な叙述報告【オプション】

<定性的な叙述報告></定性的な叙述報告>

データセットの定性的な品質情報の具体的な説明を行う項目 .

数値地図 2500

<定性的な叙述報告>「数値化にあたっては、2500 分の 1 都市計画基図の他、国土地理院発行の 1 万分の 1 地形図及び 2 万 5 千分の 1 地形図を使用しました。」</定性的な叙述報告>

地価公示ファイル

<定性的な叙述報告>・計測結果については、以下の点検を行い、修正を行っている フォーマットチェック 計測結果のフォーマットが正しいか否かを点検 範囲チェック データの数値が指定された範囲にあるか否かを点検 四隅座標チェック 四隅座標の最大較差が、0.3mm 以内であるか否かを点検 座標チェック 正規化された X, Y 座標が、(0, 1) の範囲にあるか否かを点検・計測誤差の点検 出力図と計測基図上の標準値の位置の中心の間隔が 0.3mm 以上ずれているときは、当該標準値・基準値を再計測</定性的な叙述報告>

18. 空間表現型コード【オプション，複数回記述可】

<空間表現型コード></空間表現型コード>

データセットの空間データとしてのタイプを表す項目。以下の4の中から選択する。

1: テキスト, 2: ベクトル, 3: ラスター, 4: 画像

数値地図 2500

<空間表現型コード>2</空間表現型コード>

<空間表現型コード>3</空間表現型コード>

地価公示ファイル

<空間表現型コード>2</空間表現型コード>

古水文学データベース中部日本-1(試作)

<空間表現型コード>2</空間表現型コード>

19. 空間参照系型【オプション，複数回記述可】

<空間参照系型></空間参照系型>

データセットで位置を定めるのに使われる参照系についての情報を表す項目。以下の2の中から選択する。

1：地理的識別子，2：座標

地理的識別子については3. データセットの範囲の項を参照のこと。

数値地図 2500

<空間参照系型>2</空間参照系型>

国勢調査

<空間参照系型>1</空間参照系型>

地価公示ファイル

<空間参照系型>2</空間参照系型>

古水文学データベース中部日本-1(試作)

<空間参照系型>2</空間参照系型>

20. 配布データ識別子【オプション，複数回記述可】

<配布データ識別子></配布データ識別子>

配布者がデータを確認するための識別子（ファイルの一意な識別記号）であり，通常は，データセットのファイル名を記入する（パス名は記入しない）.

地価公示ファイル

<配布データ識別子>L01-07P</配布データ識別子>

21. フォーマット名【オプション，複数回記述可】

<フォーマット名></フォーマット名>

データセットのフォーマットを表す項目。

数値地図 2500

<フォーマット名>「国土地理院独自形式」</フォーマット名>

国勢調査

<フォーマット名>ISO9660</フォーマット名>

地価公示ファイル

<フォーマット名>日本語 Shift-JIS , 英数字 ASCII</フォーマット名>

<フォーマット名>英数字 ASCII</フォーマット名>

古水文学データベース中部日本-1(試作)

<フォーマット名>ArcView</フォーマット名>

22. 配布に使用するメディア【オプション、複数回記述可】

<配布に使用するメディア></配布に使用するメディア>

データセットを配布する場合に用いられるメディアを表す項目。

数値地図 2500

<配布に使用するメディア>CD-ROM</配布に使用するメディア>

国勢調査

<配布に使用するメディア>CD-R</配布に使用するメディア>

地価公示ファイル

<配布に使用するメディア>CD-ROM(650MB)</配布に使用するメディア>

<配布に使用するメディア>1/2インチ・データカートリッジテープ(200MB)</配布に使用するメディア>

<配布に使用するメディア>1/4インチ・データカートリッジテープ(150MB)</配布に使用するメディア>

<配布に使用するメディア>3.5インチ・光磁気ディスク(230MB)</配布に使用するメディア>

<配布に使用するメディア>3.5インチ・フロッピーディスク(1.44MB)</配布に使用するメディア>

23. 配布データのオンライン情報源の URL【オプション、複数回記述可】

<オンライン情報源の URL></オンライン情報源の URL>

配布データに関する情報源にアクセスするための URL を記述する項目。

国勢調査

<オンライン情報源の URL><http://www.sinfonica.or.jp></オンライン情報源の URL>

古水文学データベース中部日本-1(試作)

<オンライン情報源の URL><http://www.geogrs.u-tokyo.ac.jp/glocoph></オンライン情報源の URL>

25(24は欠番) . メタデータコードの言語 , メタデータ文字コードセット【オプション】

```
<メタデータコードの言語></メタデータコードの言語>
<メタデータ文字コードセット></メタデータ文字コードセット>
```

メタデータを記述している言語と文字コードセットを表す項目 . 日本語の場合は jpn , 英語の場合は en .

数値地図 2500

```
<メタデータコードの言語>jpn</メタデータコードの言語>
<メタデータ文字コードセット>shift_jis</メタデータ文字コードセット>
```

国勢調査

```
<メタデータコードの言語>jpn</メタデータコードの言語>
<メタデータ文字コードセット>Shift-JIS</メタデータ文字コードセット>
```

地価公示ファイル

```
<メタデータコードの言語>jpn</メタデータコードの言語>
<メタデータ文字コードセット>iso-2022-jp</メタデータ文字コードセット>
```

古水文学データベース中部日本-1(試作)

```
<メタデータコードの言語>jpn</メタデータコードの言語>
```

## 26. メタデータの日付【オプション】

<メタデータの日付></メタデータの日付>

メタデータの作成日を表す項目。西暦を用い、1999年4月30日であれば19990430と記入する。

数値地図 2500

<メタデータの日付>19981110</メタデータの日付>

国勢調査

<メタデータの日付>19981215</メタデータの日付>

地価公示ファイル

<メタデータの日付>19990330</メタデータの日付>

古水文学データベース中部日本-1(試作)

<メタデータの日付>19981202</メタデータの日付>

## 27. 識別情報【オプション、画像データの場合にのみ記入】

```
<識別情報>
<画像識別情報>
<通過パス識別子></通過パス識別子>
<通過口一識別子></通過口一識別子>
</画像識別情報>
<保守更新周期コード></保守更新周期コード>
<参照画像ファイル名></参照画像ファイル名>
<地理的説明></地理的説明>
</識別情報>
```

画像データセットに関する情報を表す項目。「保守更新周期コード」については以下の10から選択する。

1: 繙続的 , 2: 毎日 , 3: 每月 , 4: 毎週 , 5: 每年 , 6: 隔年 , 7: 不明 , 8: 必要に応じて , 9: 不定期 , 10: 予定なし
--

「保守更新周期コード」「参照画像ファイル名」「地理的説明」はいずれも複数回記述可である。

## 28. データ品質情報【オプション】

```
<データ品質情報>
  <データ品質>
    <データ品質評価値></データ品質評価値>
    <データ品質結果></データ品質結果>
    <データ品質評価手法></データ品質評価手法>
  </データ品質>
</データ品質情報>
```

データセットの品質について、定量的な評価試験に基づく記述を行う項目。「データ品質評価値」とは、品質評価の適用範囲について試験した結果の評価値、「データ品質結果」とは、定量的な評価値が記録される計量単位(m, kg, %など)、「データ品質評価手法」とは、データの評価に用いられたアルゴリズムをそれぞれ記入する。「データ品質情報」は複数回記述可である。

## 29. 空間データ表現情報【オプション，複数回記述可】

```
<空間データ表現情報>

<ベクトル空間表現情報>
  <位相レベルコード></位相レベルコード>
</ベクトル空間表現情報>

<ラスタ空間表現情報>
  <X 方向のラスタスキャン解像度の単位コード>
  </X 方向のラスタスキャン解像度の単位コード>
  <X 方向のラスタスキャン解像度>
  </X 方向のラスタスキャン解像度>
  <Y 方向のラスタスキャン解像度の単位コード>
  </Y 方向のラスタスキャン解像度の単位コード>
  <Y 方向のラスタスキャン解像度>
  </Y 方向のラスタスキャン解像度>
  <ラスタオブジェクトの数値単位コード>
  </ラスタオブジェクトの数値単位コード>
  <ラスタオブジェクトの X 方向地表間隔の単位コード>
  </ラスタオブジェクトの X 方向地表間隔の単位コード>
  <ラスタオブジェクトの X 方向地表間隔の測定値>
  </ラスタオブジェクトの X 方向地表間隔の測定値>
  <ラスタオブジェクトの Y 方向地表間隔の単位コード>
  </ラスタオブジェクトの Y 方向地表間隔の単位コード>
  <ラスタオブジェクトの Y 方向地表間隔の測定値>
  </ラスタオブジェクトの Y 方向地表間隔の測定値>
  <ラスタオブジェクトの Z 方向地表間隔の単位コード>
  </ラスタオブジェクトの Z 方向地表間隔の単位コード>
  <ラスタオブジェクトの Z 方向地表間隔の測定値>
  </ラスタオブジェクトの Z 方向地表間隔の測定値>
</ラスタ空間表現情報>

<画像空間表現情報>
  <画像形式></画像形式>
  <雲量></雲量>
</画像空間表現情報>

</空間データ表現情報>
```

データセットの表現について、形式に応じた記入を行う項目。ベクトルデータの場合には「ベクトル空間表現情報」、ラスターデータの場合には「ラスタ空間表現情報」、画像データの場合には「画像空間表現情報」をそれぞれ記入する。いずれも複数回記述可である。

「位相レベルコード」とは、ベクトルデータが位相データを持っているか否かを表す項目であり、以下の3から選択する。

0 : スパゲッティ , 1 : ノード・チェイン , 2 : 平面グラフ , 3 : 完全位相構造
--

「ラスタスキャン解像度の単位コード」(X方向, Y方向とも)とは, 座標軸に沿って表されたデータ密度の単位を表す項目であり, 以下の3から選択する.

1: インチ, 2: ミリメートル

「ラスタオブジェクトの数値単位コード」とは, ラスターデータの行列における各セル/ポイント値を表す項目であり, 以下の5から選択する.

1: フィート, 2: メートル, 3: RGB値, 4: HIS値, 5: 列挙型のコード

「ラスタオブジェクトの地表間隔の単位コード」(X方向, Y方向, Z方向とも)とは, ラスターデータにおいて距離を表す際に使用される単位を表す項目であり, 以下の4から選択する.

1: フィート, 2: メートル, 3: 円弧の角度(分), 4: 円弧の角度(秒)

「ラスタオブジェクトの地表間隔の測定値」(X方向, Y方向とも)とは, 地表空間のラスタオブジェクト間の距離を表す項目である.

「画像形式」とは, データによって表示された画像の一般的な種類であり, 例えば可視光, ハイパスペクトル, マルチスペクトル, レーダー等と記入する.

### 30. 参照系情報【オプション】

```
<参照系情報>
<地理的識別子による空間参照の制度名></地理的識別子による空間参照の制度名>
<座標参照系>
  <座標参照系識別子></座標参照系識別子>
  <座標系識別子></座標系識別子>
</座標参照系>
</参照系情報>
```

データセットの空間参照系を表す項目。「座標参照系識別子」及び「座標系識別子」には、それぞれ名称あるいは識別子を記入する。

#### 国勢調査

```
<参照系情報>
<地理的識別子による空間参照の制度名>基本単位区コード</地理的識別子による空間参照の制度名>
</参照系情報>
```

#### 古水文学データベース中部日本-1(試作)

```
<参照系情報>
<座標参照系>
  <座標参照系識別子>日本測地系</座標参照系識別子>
  <座標系識別子>Lon/Lat</座標系識別子>
</座標参照系>
</参照系情報>
```

### 31. 配布データフォーマット情報【オプション】

```
<配布データフォーマット情報>
  <ファイルの復元方法></ファイルの復元方法>
  <データ量></データ量>
</配布データフォーマット情報>
```

データセットを配布する際に必要となる情報を表す項目。ファイルの復元方法とは、データの圧縮が行われたデータセットに対して読み込み、すなわち展開を行うのに推奨されるアルゴリズムや処理方法を表し、圧縮が行われていなければ「圧縮適用せず」と記入する。データ量はデータのサイズを MB 単位で記入する。

#### 国勢調査

```
<配布データフォーマット情報>
  <データ量>650</データ量>
</配布データフォーマット情報>
```

### 32. フッター【必須】

```
</STA メタデータ>
```